



Department for
Science, Innovation
& Technology

UK-Japan Science and Innovation Funding Opportunities

September 2023



© Crown copyright 2023

This publication is licensed under the terms of the Open Government Licence v3.0 except where otherwise stated. To view this licence, visit nationalarchives.gov.uk/doc/open-government-licence/version/3 or write to the Information Policy Team, The National Archives, Kew, London TW9 4DU, or email: psi@nationalarchives.gsi.gov.uk.

Where we have identified any third-party copyright information you will need to obtain permission from the copyright holders concerned.

Contents

UK-Japan Joint Funding Schemes _____	6
1. 国際協力型廃炉研究プログラム（日英原子力共同研究） _____	6
2. 二国間交流事業（共同研究） _____	6
Funding Schemes Administered in Japan _____	7
1. AMED 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業（Interstellar Initiative） _____	7
2. 北海道大学 MANABIYA アカデミック _____	7
3. 京都大学 白眉プロジェクト（グローバル型） _____	7
4. JSPS 海外特別研究員 _____	7
5. JSPS 研究拠点開発事業 _____	8
6. JSPS 外国人特別研究員サマープログラム _____	8
7. JSPS 外国人特別研究員（欧米短期） _____	8
8. JSPS 外国人特別研究員（一般） _____	8
9. JSPS 外国人招へい研究者（長期） _____	9
10. JSPS 外国人招へい研究者（短期） _____	9
11. JST さくらサイエンスプログラム（さくら招へいプログラム） _____	9
12. 文部科学省 国費外国人留学生制度（研究留学生） _____	9
13. NEC C&C 財団 研究員助成事業 _____	10
14. NEDO 海外研究者招へい事業（国際研究協力ジャパントラスト） _____	10
15. NICT 国際交流プログラム _____	10
16. NICT 国際研究協力ジャパントラスト事業 _____	10
17. 東北大学電気通信研究所 共同プロジェクト研究（国際共同研究推進型） _____	11
18. RIKEN 国際プログラム・アソシエイト（IPA） _____	11
19. サントリー文化財団 研究助成「学問の未来を拓く」 _____	11
20. サントリー文化財団 若手研究者のためのチャレンジ研究助成 _____	11
21. 東電記念財団 国際技術交流援助（海外渡航・滞在） _____	12
22. 鹿島学術振興財団 国際共同研究（公募） _____	12
23. 鹿島学術振興財団 研究者海外派遣（短期・長期） _____	12
24. 鹿島学術振興財団 外国人研究者 招へい・受入れ _____	12
25. 松前国際友好財団 研究奨励金制度 _____	13
26. 村田学術振興財団 海外派遣援助 _____	13

27. 東芝フェローシッププログラム (TFP)	13
Funding Schemes Administered in the UK	14
1. AHRC 国際フェローシップ	14
2. BBSRC 国際ワークショップ	14
3. BBSRC ジャパン・パートナーリングアワード	14
4. BBSRC 国際科学交流スキーム	14
5. 英国学士院・レバハルムグラント	15
6. 英国学士院 国際学際研究プログラム	15
7. 英国学士院 訪問フェローシップ	15
8. 大和日英基金 奨励助成	15
9. 大和日英基金 重点助成	16
10. EPSRC オープンフェローシップ	16
11. EPSRC トラベルグラント	16
12. グレイトブリテン・ササカワ財団 グラント	16
13. グレイトブリテン・ササカワ財団 バターフィールド基金	17
14. レバハルム財団 国際フェローシップ	17
15. NIHR により助成されるプログラム	17
16. NIHR ヘルス技術評価プログラム	17
17. RAEng ディスティンクイッシュ国際アソシエイト	18
18. RAEng フロンティアプログラム	18
19. ニュートン国際フェローシップ	18
20. 王立協会 国際交流プログラム	18
21. 王立協会 ISPF 国際協力アワード 2023 (日本)	19
22. 王立協会 ウルフソンフェローシップ	19
23. 王立協会 ウルフソン訪問フェローシップ	19
24. STFC アーネストラザフォードフェローシップ	19
25. ウェルカムトラスト ウェルカム若手研究者アワード	20
26. ウェルカムトラスト ウェルカムキャリア開発アワード	20
27. ウェルカムトラスト ウェルカムディスカバリーアワード	20
28. ウェルカムトラスト スプリングボードアワード	20
Funding Schemes Administered in Europe	22
1. COST アクションズ	22
2. キヤノンヨーロッパ財団 研究フェローシップ	22

Multilateral Funding Programme	23
1. ベルモント・フォーラム 国際共同研究活動	23
2. HFSP プログラムグラント	23
3. HFSP 若手研究者グラント	23
4. HFSP 長期フェローシップ (LTF)	23
5. HFSP 学際的フェローシップ (CDF)	24

UK-Japan Joint Funding Schemes

1. 国際協力型廃炉研究プログラム（日英原子力共同研究）

- 助成機関: 工学・物理科学研究会議 (EPSRC)、文部科学省
- 分野: 先進廃炉科学研究
- 概要: 日英原子力共同研究は、福島およびセラフィールドに関連する原子力の研究開発に取り組む。国内の大学、研究開発機関、企業等に所属すること。また英国側の共同事業代表者も EPSRC が募集する日英原子力共同研究プログラム（UK-Japan Collaborative Civil Nuclear Research Programme）に同時に申請すること。
- 詳細: [原子力安全研究協会ウェブサイト](#)

2. 二国間交流事業（共同研究）

- 助成機関: 王立協会、日本学術振興会 (JSPS)
- 分野: 自然科学全般
- 概要: 日本を拠点とする研究者が英国を拠点とする研究者と、共同研究、セミナー、海外渡航を実施する際に必要な経費を支援する。両国の研究者ともに博士号を取得、もしくは同等レベルの研究経験を持ち、適格な研究機関に所属していること。
- 詳細: [JSPS ウェブサイト](#)

Funding Schemes Administered in Japan

1. AMED 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業 (Interstellar Initiative)

- 助成機関: 日本医療研究開発機構 (AMED)
- 分野: 健康・医療
- 概要: 若手研究者を世界中から公募して研究チームを編成し、メンターの指導のもと研究構想を発展させ、独創的・革新的な研究シーズを創出するための研究計画の立案を目指すとともに、ネットワーク・共同研究の機会を構築する。
- 詳細: [AMED ウェブサイト](#)

2. 北海道大学 MANABIYA アカデミック

- 助成機関: 北海道大学
- 分野: 計算科学、情報科学、実験科学
- 概要: MANABIYA は、新たな化学反応の合理的かつ効率的な開発を可能にする手法を世界に普及・活用するための制度。MANABIYA アカデミックは国内外の大学・研究機関の若手研究者と学生が北海道大学化学反応創成研究拠点 (ICReDD) に2週間から3か月までの期間滞在する。滞在費および交通費が支給される。
- 詳細: [北海道大学ウェブサイト](#)

3. 京都大学 白眉プロジェクト (グローバル型)

- 助成機関: 京都大学
- 分野: 人文科学、社会科学、自然科学などすべての分野 (基礎～応用)
- 概要: 将来京都大学において世界トップレベルの研究者として活躍する人材を育成する。博士の学位を有する者が応募でき、国籍は問われない。原則5年間、京都大学特定有期雇用教職員就業規則に定める年俸制特定教員として採用され、支給基準に基づき給与が支給される。
- 詳細: [京都大学ウェブサイト](#)

4. JSPS 海外特別研究員

- 助成機関: 日本学術振興会 (JSPS)
- 分野: 人文科学、社会科学及び自然科学の全分野
- 概要: 国内の優れた若手研究者を海外に派遣し、特定の大学等研究機関で長期間研究に専念できるよう支援する。日本の大学・研究機関等に所属する研究者で、博士の学位を取得後5年未満、もしくは大学・研究機関等の任期の定めのない無常勤研究職の職歴が過去通算して5

年未満の者が申請できる。渡航費、滞在費、研究活動費、子供手当（RRA プログラムのみ）が支給される。

- 詳細: [JSPS ウェブサイト](#)

5. JSPS 研究拠点開発事業

- 助成機関: 日本学術振興会 (JSPS)
- 分野: 日本において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題（人文科学、社会科学及び自然科学の全分野）
- 概要: 日本と世界各国の研究拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することを目的とする。両国の研究機関の協力関係で実施する共同研究、セミナー等の活動を支援する。
- 詳細: [JSPS ウェブサイト](#)

6. JSPS 外国人特別研究員サマープログラム

- 助成機関: 日本学術振興会 (JSPS)
- 分野: 人文科学、社会科学及び自然科学の全分野
- 概要: 英国を含む欧米 6 か国の博士号取得前後の若手研究者に対し、夏期 2 か月間、日本語及び日本文化等に関するオリエンテーションと、大学・研究機関等において日本側受入研究者の指導の下に協働して研究に従事する機会を提供する。渡航費、滞在費、海外旅行保険、調査研究費が支給される。
- 詳細: [JSPS ウェブサイト](#)

7. JSPS 外国人特別研究員（欧米短期）

- 助成機関: 日本学術振興会 (JSPS)
- 分野: 人文科学、社会科学及び自然科学の全分野
- 概要: 博士号取得前後の英国を含む欧米諸国の若手研究者に対し、1 か月以上 12 か月以内の期間、日本の大学・研究機関等にて日本側受入研究者の指導のもと研究に従事する機会を提供する。渡航費、滞在費、渡日一時金、海外旅行保険が支給される。また受入研究者は所属機関を通じて調査研究費に申請できる。
- 詳細: [JSPS ウェブサイト](#)

8. JSPS 外国人特別研究員（一般）

- 助成機関: 日本学術振興会 (JSPS)
- 分野: 人文科学、社会科学及び自然科学の全分野
- 概要: 博士号取得後 6 年未満の若手研究者に対し、12-24 か月間、日本の大学・研究機関等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する。渡航

費、滞在費、渡日一時金、海外旅行保険が支給される。また受入研究者は所属機関を通じて「特別研究員奨励費」に申請できる。

- 詳細: [JSPS ウェブサイト](#)

9. JSPS 外国人招へい研究者（長期）

- 助成機関: 日本学術振興会 (JSPS)
- 分野: 人文科学、社会科学及び自然科学の全分野
- 概要: 中堅から教授級の優秀な諸外国の研究者を招へいし、2 か月以上 10 か月以内の期間、日本の受入研究者との共同研究を行う機会を提供する。渡航費、滞在費、海外旅行保険が支給される。また受入研究者は所属機関を通じて調査研究費を申請できる。
- 詳細: [JSPS ウェブサイト](#)

10. JSPS 外国人招へい研究者（短期）

- 助成機関: 日本学術振興会 (JSPS)
- 分野: 人文科学、社会科学及び自然科学の全分野
- 概要: 中堅から教授級の優秀な諸外国の研究者を招へいし、14 日以上 60 日以内の期間、日本の研究者との討議・意見交換や講演等を通じて関係分野の研究の発展に寄与することを目的とする。滞在費、渡航費、海外旅行保険が支給される。また受入申請者は所属機関を通じて調査研究費を申請できる。
- 詳細: [JSPS ウェブサイト](#)

11. JST さくらサイエンスプログラム (さくら招へいプログラム)

- 助成機関: 科学技術振興機構 (JST)
- 分野: 科学技術（自然科学、人文科学及び社会科学）
- 概要: 産学官の連携により、海外の若者を日本に招へいし、7 日間から 3 週間の期間、日本の科学技術を体験する機会を提供する。原則、すべての国・地域の 40 歳以下の学生、研究者、科学技術に関わる業務の方が応募可能。JST が交流事業費（渡航費・滞在費など）を受入れ機関に支援する。
- 詳細: [JST ウェブサイト](#)

12. 文部科学省 国費外国人留学生制度（研究留学生）

- 助成機関: 文部科学省
- 全分野

- 概要: 35 歳以下の修士課程、博士課程（前期・後期）の優秀な外国籍の学生が日本の大学において研究を行うのを支援する。日本政府と国交のある国の国籍を有すること。手続きは全て、在外日本国大使館または日本国内の大学等を通じて行われる。
- 詳細: [文部科学省ウェブサイト](#)

13. NEC C&C 財団 研究員助成事業

- 助成機関: NEC C&C 財団
- 分野: C&C 技術分野（情報処理、通信、電子デバイス、ICT、データサイエンス、AI、センシング、認識、ロボティクス、自動制御、情報セキュリティ、仮想現実など）
- 概要: C&C 技術分野の研究を行う者に対し、研究費等を補助する。助成開始時に国内の大学の大学院又は同等の機関の博士後期課程に在籍する 40 歳以下の方が対象。国籍は問わない。
- 詳細: [NEC C&C 財団ウェブサイト](#)

14. NEDO 海外研究者招へい事業（国際研究協力ジャパントラスト）

- 助成機関: 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
- 分野: 鉱工業基盤技術
- 概要: NEDO が公募により外国人研究者を民間企業に招へいし、民間投資家等の寄付により積み立てられた基金の運用益等をもと、招へい研究者の渡航費、滞在費、支度料、国内出張費を支援する。
- 詳細: [NEDO ウェブサイト](#)

15. NICT 国際交流プログラム

- 助成機関: 情報通信研究機構 (NICT)
- 分野: 情報通信（高度な電気通信技術、放送技術）
- 概要: 海外の研究者を受け入れて情報通信分野の研究と技術開発を行う国内の研究機関（大学、民間企業、公益法人など）を支援する。渡航費、滞在費等の招へいに必要な経費が支給される。
- 詳細: [NICT ウェブサイト](#)

16. NICT 国際研究協力ジャパントラスト事業

- 助成機関: 情報通信研究機構 (NICT)
- 分野: 情報通信（高度な電気通信技術、放送技術）

- 概要: NICT が公募により外国人研究者を民間企業に招へいし、民間投資家等の寄付により積み立てられた基金の運用益等をもとに、招へい研究者に対して渡航費、滞在費、支度料、国内出張費を支援する。
- 詳細: [NICT ウェブサイト](#)

17. 東北大学電気通信研究所_共同プロジェクト研究 (国際共同研究推進型)

- 助成機関: 東北大学電気通信研究所
- 分野: 情報通信
- 概要: 情報通信分野における技術・システムに関する研究を国内外の優れた研究者の協力のもとに企画・調整し、プロジェクト研究として実施する。共同プロジェクト研究の実施や研究集会開催のために必要な経費が支給される。
- 詳細: [東北大学電気通信研究所ウェブサイト](#)

18. RIKEN 国際プログラム・アソシエイト (IPA)

- 助成機関: 理化学研究所 (RIKEN)
- 分野: 自然科学
- 概要: 理化学研究所が国内外の大学院・研究機関との協定に基づいて、最長 3 年間、外国籍を有する大学院博士課程の留学生を受け入れ、理研の研究者と連携大学院・機関の研究者が共同で学位取得のための研究指導を行う。理研と協定を締結した、国内外の大学の博士後期課程に在籍する外国籍の学生が申請できる。
- 詳細: [RIKEN ウェブサイト](#)

19. サントリー文化財団 研究助成「学問の未来を拓く」

- 助成機関: サントリー文化財団
- 分野: 人文学、社会科学
- 概要: 従来の「研究」や「学問」を問い直す、知的冒険に満ちたグループ研究活動の振興を目的とする。大学等に所属する研究者だけでなく、多様なバックグラウンドを持った専門家の参加も歓迎する。申請代表者の国籍・所属などは問わないが、書類作成、中間報告会での学際的な議論への参加が可能な日本語能力を持つこと。
- 詳細: [サントリー文化財団ウェブサイト](#)

20. サントリー文化財団 若手研究者のためのチャレンジ研究助成

- 助成機関: サントリー文化財団

-
- 分野: 人文学、社会科学
 - 概要: 博士前期（修士）課程修了以上 35 歳以下の若手研究者による人文学、社会科学分野の個人研究を支援する。申請者の国籍・所属などは問わないが、書類作成、学際的な議論への参加が可能な日本語能力を持つこと。
 - 詳細: [サントリー文化財団ウェブサイト](#)

21. 東電記念財団 国際技術交流援助 (海外渡航・滞在)

- 助成機関: 東電記念財団
- 分野: 電気、エネルギー分野（関連する環境分野を含む）の産業・生活に関わる技術
- 概要: 電気・エネルギー関連の技術の向上を目的とし、国内の大学・同等の研究機関等に所属する 40 歳未満の研究者、もしくは申請時点で大学院生が国際会議等に出席する際の旅費、会議登録費、宿泊費等を支援する。
- 詳細: [東電記念財団ウェブサイト](#)

22. 鹿島学術振興財団 国際共同研究（公募）

- 助成機関: 鹿島学術振興財団
- 分野: 都市・居住環境の向上、国土・資源の有効利用、防災・危機管理の推進、文化・自然環境の保全
- 概要: 日本と海外の大学・研究機関等の研究グループによる共同研究に対し、1 件最大 1,000 万円の研究費を支援する。日本の大学等の研究機関（営利企業を除く）に所属する常勤の研究者で、海外の研究グループと共同で研究を行う研究グループの代表者が申請できる。
- 詳細: [鹿島学術振興財団ウェブサイト](#)

23. 鹿島学術振興財団 研究者海外派遣（短期・長期）

- 助成機関: 鹿島学術振興財団
- 分野: 自然科学、工学、人文・社会科学、学際融合的な領域で、国民の生活向上に寄与する研究（特に 22 番の国際共同研究で指定した 4 つのテーマ）
- 概要: 指定された推薦機関の常勤の研究者の海外派遣を支援する。期間 3 か月以内の短期派遣は上級研究者（教授級）および中堅研究者（准教授、講師、助教授）が、期間 1 年以内の長期派遣は中堅研究者のみが対象。渡航費と滞在費が支給される。
- 詳細: [鹿島学術振興財団ウェブサイト](#)

24. 鹿島学術振興財団 外国人研究者 招へい・受入れ

- 助成機関: 鹿島学術振興財団
- 分野: 自然科学、工学、人文・社会科学、学際融合的な領域等で、国民の生活向上に寄与する研究（特に 22 番の国際共同研究で指定した 4 つのテーマ）

- 概要: 外国人上級研究者（教授級）の招へい（期間 3 か月以内）と、外国人中堅研究者（准教授級）および若手研究者（助教授、大学院生）の受入れ（期間 1 年以内）を支援する。指定された推薦機関に所属する常勤の研究者が申請可能。渡航費と滞在費が支給される。
- 詳細: [鹿島学術振興財団ウェブサイト](#)

25. 松前国際友好財団 研究奨励金制度

- 助成機関: 松前国際友好財団
- 分野: 自然科学・工学・医学の研究分野は優先度が高い。
- 概要: 優れた若手研究者を日本に招待する。申請時に 49 歳以下で博士号を有する外国籍の研究者が対象で、申請者は日本国内の受入研究機関より承諾を得ていること。渡航費、研究奨励金、来日一時金、旅行者保険が支給されるとともに、国内研究旅行が実施される。
- 詳細: [松前国際友好財団ウェブサイト](#)

26. 村田学術振興財団 海外派遣援助

- 助成機関: 村田学術振興財団
- 分野: 自然科学（特にエレクトロニクス）、または国際化にともなう法律、経済、社会、文化等の諸問題に関する人文・社会科学
- 概要: 海外での研究活動にかかる費用、または国際会議参加費用を支援する。日本国内に在住（国籍不問）し、海外での研究活動の実施、もしくは国際会議等への参加について受入機関の承諾を得ている方、または申請中であるが受入承諾が得られる見込みのある方が対象。
- 詳細: [村田学術振興財団ウェブサイト](#)

27. 東芝フェロースhipプログラム（TFP）

- 助成機関: 東芝
- 分野: 工学・物理学（研究トピックは毎年異なる）
- 概要: 英国を拠点とする若手研究者が来日し、東芝で指定されたトピックの研究を実施するとともに、日本での生活を 1 年間体験する。フェローは給与、日本に移住する際に発生する費用が支給されるとともに、渡航前および滞在中もサポートを受けることができる。
- 詳細: [東芝ウェブサイト](#)

Funding Schemes Administered in the UK

1. AHRC 国際フェローシップ

- 助成機関: 芸術・人文科学研究会議 (AHRC)
- 分野: 芸術・人文学
- 概要: 本フェローシップは、AHRC の資金援助を受ける博士課程の学生または若手研究者と博士号レベルの研究助手を対象に、下記のいずれかの研究機関における 2-6 か月の研究活動を支援する。滞在費月 1,925 ポンド、渡航費・ビザ申請料 1,000 ポンドが支給される。
 - o Harry Ransom Center, US
 - o The Huntington Library, US
 - o The Library of Congress, US
 - o National Institutes for the Humanities (NIHU), Japan
 - o Smithsonian Institution, US
- 詳細: [AHRC ウェブサイト](#)

2. BBSRC 国際ワークショップ

- 助成機関: バイオテクノロジー・生物科学研究会議 (BBSRC)
- 分野: バイオテクノロジー、生物科学
- 概要: BBSRC が管轄する分野における、海外の研究者との共同ワークショップの実施を支援するため、最大 10,000 ポンドまで支給する。開催場所は英国でも海外でもよい。すべての国を対象とするが、特に日本、オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、EU 加盟国、インド、ニュージーランド、台湾、米国からの応募を歓迎する。
- 詳細: [BBSRC ウェブサイト](#)

3. BBSRC ジャパン・パートナーングアワード

- 助成機関: バイオテクノロジー・生物科学研究会議 (BBSRC)
- 分野: バイオテクノロジー、生物科学
- 概要: 英国の研究グループが日本の研究機関とパートナーシップを構築し、科学者の交流（特に若手科学者）や国外の施設利用の促進を支援する。最大 50,000 ポンドまで支給する。
- 詳細: [BBSRC ウェブサイト](#)

4. BBSRC 国際科学交流スキーム

- 助成機関: バイオテクノロジー・生物科学研究会議 (BBSRC)
- 分野: バイオテクノロジー、生物科学

-
- 概要: BBSRC から資金援助を受ける研究者、および BBSRC 傘下の研究所に所属する研究者が国際共同研究のパートナーや国外の施設を訪問する際などの渡航費および生活費を 3,000 ポンドまで支援する。
 - 詳細: [BBSRC ウェブサイト](#)

5. 英国学士院・レバハルムグラント

- 助成機関: 英国学士院
- 分野: 人文学、社会科学
- 概要: 博士号を取得した学者、または同等の経験を有する者の人文学および社会科学における一次調査を支援する。申請代表者は英国に在住していること。共同申請者の拠点は問わない。最長 24 か月間、最大 10,000 ポンドまで研究費が支給される。
- 詳細: [英国学士院ウェブサイト](#)

6. 英国学士院 国際学際研究プログラム

- 助成機関: 英国学士院
- 分野: 人文学、社会科学
- 概要: 社会科学と人文学の分野で英国を拠点とする研究者に、学際的な研究プロジェクトを開発し、リードする機会を支援する。博士号取得後 7 年以内の若手研究者を対象とする。応募には英国外在住の共同申請者の参画が必要。24 か月間で、30 万ポンドが支給される。
- 詳細: [英国学士院ウェブサイト](#)

7. 英国学士院 訪問フェローシップ

- 助成機関: 英国学士院
- 分野: 人文学、社会科学
- 概要: 英国外を拠点とする人文学・社会科学分野の優れた研究者が、英国の高等教育機関または研究機関で最大 6 か月間研究活動する機会を支援する。研究者は博士号を取得しているか、同等の研究経験を有していること。キャリアステージは問わない。
- 詳細: [英国学士院ウェブサイト](#)

8. 大和日英基金 奨励助成

- 助成機関: 大和日英基金
- 分野: 学術、芸術、文化、科学、教育
- 概要: 日英間の相互交流の促進・支援につながるプロジェクトを実施する個人、団体、グループに、2,000～9,000 ポンドの範囲で支援する。教育的交流や学術研究調査などが助成対象。英国または日本に在住しており、日英関係に長期間従事していることを示すこと。
- 詳細: [大和日英基金ウェブサイト](#)

9. 大和日英基金 重点助成

- 助成機関: 大和日英基金
- 分野: 学術、芸術、文化、科学、教育（日英パートナーシップによる意義のある提携プロジェクトは、分野を問わず審査の対象）
- 概要: 助成額 9,000～18,000 ポンドの範囲で、日英の研究機関・団体間の共同プロジェクトを支援する。英国または日本を拠点としており、日英関係に長期間従事していることを示すこと。
- 詳細: [大和日英基金ウェブサイト](#)

10. EPSRC オープンフェローシップ

- 助成機関: 工学・物理科学研究会議 (EPSRC)
- 分野: 工学・物理学で、(1)ディスカバリーサイエンス、(2)イノベーション、(3)計測・技術開発、(4)ソフトウェアエンジニアリングのいずれか1つ以上に該当すること。
- 概要: 工学・物理学分野における博士号取得者、もしくは4年以上の実務経験がある者の、英国の研究機関における最大5年間の活動を支援する。金額に上限はなく、80%を工学・物理科学研究会議 (EPSRC) が、残り20%を所属機関が負担する。国籍は問わない。申請者は適格な英国の研究機関から受入れられること。
- 詳細: [EPSRC ウェブサイト](#)

11. EPSRC トラベルグラント

- 助成機関: 工学・物理科学研究会議 (EPSRC)
- 分野: EPSRC が管轄する分野（デジタル経済、エネルギー、工学、数理科学、物理科学、量子技術、研究インフラなど）
- 概要: 英国の適格な研究機関に所属する研究者が新たな技術の習得や共同研究のための海外渡航の旅費、滞在費、給与、間接費、ビザにかかる費用を支援する。
- 詳細: [EPSRC ウェブサイト](#)

12. グレイトブリテン・ササカワ財団 グラント

- 助成機関: グレイトブリテン・ササカワ財団
- 分野: 芸術・文化、人物・社会交流、日本語教育、医学、科学・技術・環境、スポーツ、学校・教育・青少年交流
- 概要: 上記の分野の日英交流事業を支援する。英国または日本国籍を持つ組織・団体が対象。英国にある団体が主催するプロジェクトについてはロンドン事務所へ、日本にある団体が主催するプロジェクトについては東京事務所へ申請すること。ロンドン事務所では年3回、東京事務所では年2回の申請を受け付けている。
- 詳細: [グレイトブリテン・ササカワ財団ウェブサイト](#)

13. グレイトブリテン・ササカワ財団 バターフィールド 基金

- 助成機関: グレイトブリテン・ササカワ財団
- 分野: 医学・健康
- 概要: 日英の医学分野に携わる人々による医学調査研究交流のための交通費、生活費、あるいは経費を助成する。日英両国の機関による共同事業であること。最高 10,000 ポンドまで、最長 3 年間の継続的なプロジェクト資金が提供される。ロンドン事務所で年 1 回申請を受け付けている。
- 詳細: [グレイトブリテン・ササカワ財団ウェブサイト](#)

14. レバハルム財団 国際フェローシップ

- 助成機関: レバハルム財団
- 分野: すべての分野（ただしヒトおよび動物の疾病、疾患、障害に関する研究、臨床診療や医療用アプリケーションの研究は除く）
- 概要: 研究者が英国外の複数の研究施設での新しい知識、スキルやアイデアの開発を支援する。申請時に英国に居住しており、英国の大学や UKRI から助成を受けることができる高等教育機関等に勤務し、少なくとも過去 3 年間は英国でそのような職に就いている方が対象。期間は 3 か月以上 24 か月未満で、最大 50,000 ポンドまで支給される。
- 詳細: [レバハルム財団ウェブサイト](#)

15. NIHR により助成されるプログラム

- 助成機関: 英国国立健康研究所 (NIHR)
- 分野: 健康
- 概要: NIHR がファンドするすべてのプログラムは、契約が英国内で行われる国際的な研究への助成を考慮する。申請前に個々のプログラムに問い合わせる条件を確認すること。
- 詳細: [NIHR ウェブサイト](#)

16. NIHR ヘルス技術評価プログラム

- 助成機関: 英国国立健康研究所 (NIHR)
- 分野: 健康
- 概要: NHS でケアを計画、提供、または受ける人々のために、ヘルスケア治療や検査の効果、コスト、より広い影響に関する独立した研究に資金を提供する。NIHR は、委託研究、研究者主導のワークストリームなど、様々なルートで研究を支援する。
- 詳細: [NIHR ウェブサイト](#)

17. RAEng ディスティンクイッシュ国際アソシエイト

- 助成機関: 王立工学アカデミー (Royal Academy of Engineering, RAEng)
- 分野: 工学 (特に王立工学アカデミーの戦略的目標である持続可能な社会、もしくはインクルーシブな経済の実現に貢献する分野)
- 概要: あらゆるセクターで活躍し、工学研究やイノベーションの最先端にいる国際的かつ英国とのつながりを強めたいエンジニアを支援する。英国外を拠点とし、約 10-25 年のポストドクまたは同等の経験を有していること。申請者はすでにその分野で重要な国際的実績を確立して認識されていることが想定される。最大 24 か月間、10,000 ポンドが支給される。
- 詳細: [RAEng ウェブサイト](#)

18. RAEng フロンティアプログラム

- 助成機関: 王立工学アカデミー (Royal Academy of Engineering, RAEng)
- 分野: 工学
- 概要: シンポジウムと助成金を通じて、英国および世界中の熱意ある研究者、革新者、実務家をつなぎ、複雑な地球規模課題を解決する機会を支援する。シンポジウム参加者は、シンポジウムで議論したプロジェクトを実施するために 3 種類の助成金に申請できる。
- 詳細: [RAEng ウェブサイト](#)

19. ニュートン国際フェローシップ

- 助成機関: 王立協会、英国学士院
- 分野: 自然科学 (ただし、臨床医学は除く)、工学、人文学、社会科学
- 概要: 英国で研究活動することを望む、英国外を拠点とする若手研究者に向けた 3 年間のプログラム。博士号を取得し、博士号取得後のフルタイム勤務の経験が 7 年未満かつ英国市民権を持たない方が申請可能で、給与、研究費、ビザ申請料、間接費等を支援する。
- 詳細: [王立協会ウェブサイト](#)

20. 王立協会 国際交流プログラム

- 助成機関: 王立協会
- 分野: 自然科学全般 (臨床医学は除く)
- 概要: 英国を拠点とする研究者による英国外の研究者との新たな共同研究を奨励するため、単発の出張、および 2 国間の旅費等を負担する (金額は出張期間による)。英国外すべての国発・着の出張への利用が可能。英国の研究者と英国外の共同申請者は、博士号または同等の研究経験を持ち、プロジェクトの期間中、条件を満たす研究機関に所属すること。
- 詳細: [王立協会ウェブサイト](#)

21. 王立協会 ISPF 国際協力アワード 2023 (日本)

- 助成機関: 王立協会
- 分野: 自然科学全般（臨床医学は除く）
- 概要: 国際科学パートナーシップ基金（ISPF）のもと、日英両国の優れた新進気鋭の研究者が二国間の共同研究を共に発展させるための資金を提供する。英国を代表する申請者と日本を代表する申請者は、共に新たに独立し、自身の研究グループを持つ研究者であり、かつ国際共同研究プログラムの研究ビジョンをリードし、推進する準備が整っていること。本制度では、年間 75,000 ポンドを 3 年間、最大 225,000 ポンドが支給される。助成金は共同研究を促進する活動に柔軟に使用することができる。
- 詳細: [王立協会ウェブサイト](#)

22. 王立協会 ウルフソンフェローシップ

- 助成機関: 王立協会、ウルフソン基金
- 分野: 自然科学全般（臨床医学は除く）
- 概要: 英国の大学や非営利の研究機関が英国外の優れた研究者を採用できるよう、5 年間で最大 30 万ポンドを支給する。申請者は英国外に在住しており、大学副総長又は研究機関所長から推薦、および大学・研究機関からファームオファーを取得していること。
- 詳細: [王立協会ウェブサイト](#)

23. 王立協会 ウルフソン訪問フェローシップ

- 助成機関: 王立協会、ウルフソン基金
- 分野: 自然科学全般（臨床医学は除く）
- 概要: 優れた国際的な研究者が、英国の大学や研究機関で 12 ヶ月間のサバティカル休暇を柔軟に取得する機会を提供する。申請者は英国の研究機関からファームオファーを取得していること。12 万 5,000 ポンドまで奨学金および研究費を申請できる。
- 詳細: [王立協会ウェブサイト](#)

24. STFC アーネストラザフォードフェローシップ

- 助成機関: 科学技術施設会議 (STFC)
- 分野: STFC のコアプログラムである下記のいずれか: 天文学、太陽・惑星科学、素粒子物理学、粒子宇宙物理学、宇宙論、原子核物理学、加速器物理学
- 概要: 最大 5 年まで独立した研究プロジェクトを支援する。博士号を取得し、無期限雇用の職に就いておらず、かつ明確にリーダーとしての素質を持つ若手研究者が対象。英国の研究機関からホストされること。申請者の国籍は問わない。
- 詳細: [STFC ウェブサイト](#)

25. ウェルカムトラスト ウェルカム若手研究者アワード

- 助成機関: ウェルカムトラスト (Wellcome Trust)
- 全分野
- 概要: あらゆる分野の若手研究者を支援する。英国、アイルランド、低・中所得国の適格な受入研究機関からのスポンサーシップがあること（ただしインドと中国本土は除く）。博士号または同等レベルの高等研究学位を取得する方、並びに少なくとも4年間の同等の研究経験を有する方が対象。最大5年間、給与と研究費として最大40万ポンドまで支給する。
- 詳細: [Wellcome Trust ウェブサイト](#)

26. ウェルカムトラスト ウェルカムキャリア開発アワード

- 助成機関: ウェルカムトラスト (Wellcome Trust)
- 全分野
- 概要: 国際的な研究リーダーとなる可能性を秘めた、あらゆる分野の中堅研究者を支援する。英国、アイルランド、低・中所得国の適格な受入研究機関からのスポンサーシップを持つ者が対象（ただしインドと中国本土は除く）。最大8年間、給与と研究費を支給する。
- 詳細: [Wellcome Trust ウェブサイト](#)

27. ウェルカムトラスト ウェルカムディスカバリーアワード

- 助成機関: ウェルカムトラスト (Wellcome Trust)
- 全分野
- 概要: 人間の生活、健康、ウェルビーイングを改善するために、大胆かつ創造的な研究アイデアを追求するあらゆる分野の研究者やチームを対象に支援する。申請代表者は英国、アイルランド、低・中所得国の適格な受入研究機関からのスポンサーシップを持ち（ただしインドと中国本土は除く）、申請時点で、無期限または長期の契約、あるいはその保証があることが必要。通常8年間、研究費を支給する。
- 詳細: [Wellcome Trust ウェブサイト](#)

28. ウェルカムトラスト スプリングボードアワード

- 助成機関: 医学アカデミー (AMS)、ウェルカムトラスト (Wellcome Trust)
- 分野: 生物医学

-
- 概要: 医学アカデミー(AMS)との協力のもとで、基礎生物医学研究者の独立した研究キャリア形成を支援する。申請者は英国の研究機関に所属し、初めて独立したポスト（講師職など）に任命されてから3年以内であること。2年間、研究補助費および研究費が最大10万ポンドまで支給される。
 - 詳細: [Wellcome Trust ウェブサイト](#)

Funding Schemes Administered in Europe

1. COST アクションズ

- 助成機関: 欧州科学技術協力機構 (COST)
- 分野: 学際的な研究
- 概要: COST は、COST Actions と呼ばれる学際的な研究ネットワークを支援する。欧州内外の研究者、イノベーター、産業界の専門家を集め、4 年間にわたり研究テーマに沿って共同研究を行い、会議、トレーニング、短期ミッション等のネットワーキング活動に必要な費用が支給される。日本は COST の国際パートナー国である。
- 詳細: [COST ウェブサイト](#)

2. キャノンヨーロッパ財団 研究フェローシップ

- 助成機関: キャノンヨーロッパ財団
- 分野は問わない
- 概要: 欧州と日本の優秀な研究者に年間 15 名までのフェローシップを授与する。フェローシップの期間は 3 か月から 1 年間で、ヨーロッパ人のフェローは日本で、日本人のフェローはヨーロッパで研究することが期待される。英国を含むすべてのヨーロッパ人と日本人で、少なくとも過去 10 年以内に修士号または博士号を取得していること。
- 詳細: [キャノンヨーロッパ財団ウェブサイト](#)

Multilateral Funding Programme

1. ベルモント・フォーラム 国際共同研究活動

- 実施主体: ベルモント・フォーラム
- 分野: 環境科学
- 概要: ベルモント・フォーラムは、様々な分野において国際共同研究活動 (CRA) を行っており、国際共同プロジェクトを支援する。日本からは文部科学省と科学技術振興機構 (JST) が、英国からは自然環境研究会議 (NERC) がベルモント・フォーラムに参画している。ベルモント・フォーラム加盟機関はすべての CRA に参画するわけではない。
- 詳細: [ベルモント・フォーラムウェブサイト](#)

2. HFSP プログラムグラント

- 実施主体: 国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム機構 (HFSP)
- 分野: 生体の持つ複雑な機能の解明のための基礎研究
- 概要: 単一の研究室では解明することのできなかつた基礎生物学上の問題に取り組む国際共同研究を 3 年間支援する。特に生物科学の問題に焦点を当て、異なる研究分野を組み合わせた新たな共同研究に重点を置く。2 カ国以上の独立した研究者 2-4 名の国際共同研究チームを対象とする。キャリア段階は問わない。
- 詳細: [AMED ウェブサイト](#)

3. HFSP 若手研究者グラント

- 実施主体: 国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム機構 (HFSP)
- 分野: 生体の持つ複雑な機能の解明のための基礎研究
- 概要: 単一の研究室では解明することのできなかつた基礎生物学上の問題に取り組む国際共同研究を 3 年間支援する。特に生物科学の問題に焦点を当て、異なる研究分野を組み合わせた新たな共同研究に重点を置く。2 カ国以上の独立した研究者 2-4 名の国際共同研究チームが対象。全員が 5 年以内に独立した研究者、かつ博士号取得後 10 年以内であること。
- 詳細: [AMED ウェブサイト](#)

4. HFSP 長期フェローシップ (LTF)

- 実施主体: 国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム機構 (HFSP)
- 分野: 生体の持つ複雑な機能の解明のための基礎研究
- 概要: 生命科学分野で博士号を取得し、かつ海外の研究室で博士課程とは異なる研究領域で幅広い経験を積むことを希望する研究者を支援する。HFSP 加盟国の国籍の者はどの国の研究機関でも申請できる。申請締切時に博士号取得から 3 年以内で、かつ主筆執筆者となっ

ている論文が 1 報以上、査読が行われる国際的な学術誌に発表あるいは掲載受理されていること。

- 詳細: [AMED ウェブサイト](#)

5. HFSP 学際的フェロースhip (CDF)

- 実施主体: 国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム機構 (HFSP)
- 分野: 生体の持つ複雑な機能の解明のための基礎研究
- 概要: 生命科学分野で研究を行うことを希望する、ライフサイエンス以外の分野の研究者（博士号保持）を支援する。HFSP 加盟国の国籍の者はどの国の研究機関でも申請できる。申請締切時に博士号取得から 3 年以内で、かつ主筆執筆者となっている論文が 1 報以上、査読が行われる国際的な学術誌に発表あるいは掲載受理されていること。
- 詳細: [AMED ウェブサイト](#)

本ウェブサイトに掲載されている情報は英国及び日本の研究者がパートナーとの共同研究を促進するファンディングの機会を見つけることを目的とし、定期的に更新されます。本情報の作成には万全を期しておりますが、正確性を保証するものではなく、またファンディングに関する情報は変更される場合があります。

最終更新 : 2023 年 9 月

